

「JENESYS2025」中国大学生訪日団の記録

1. プログラム概要

【目的】

本事業は、中国の大学生を訪日招聘し、日中大学生交流会や大学訪問を通じて日本の大学生との親睦を深めるほか、テーマ「ウェルネスライフ」に関するセミナーや視察、及び日本の経済、社会、文化、歴史等に関する視察を行い、多面的な対日理解を促進することを目的として実施しました。

【参加者】中国の大学生・大学院生等 30 名

【訪問地】東京都、大分県

【日程】

■ オンライン事前オリエンテーション：11 月 8 日（土）

■ 招へいプログラム：11 月 9 日（日）～11 月 15 日（土）

11 月 9 日（日） 東京国際空港より入国

【参観】浅草

11 月 10 日（月）【訪問・講義】順天堂大学

①講義「日本における子供の運動・スポーツ環境」 講師：鈴木宏哉 教授

②質疑応答

【参観・交流】慶應義塾大学キャンパスツアー

【視察】国会議事堂

【歓迎会】

11 月 11 日（火）【意見交換・交流】日中大学生交流会・昼食会

①アイスブレイク ②グループ交流 ③グループ発表

④講評 ⑤総括・感想 ⑥昼食会

大分県に移動

11 月 12 日（水）【訪問・講義】大分県庁

①講義「大分県における健康づくりの推進」

講師：平田雄二 大分県福祉保健部県民健康増進課 健康寿命延伸班 課長補佐

②質疑応答

【参観】宇佐神宮、別府地獄めぐり、鉄輪地獄蒸し料理体験

11 月 13 日（木）【テーマ関連視察】砂湯体験

【交流】民泊体験、入村式

11 月 14 日（金）【交流】民泊体験

東京に移動

【歓送報告会】

11 月 15 日（土）東京国際空港から帰国

2. 記録写真



11月10日(月)【訪問・講座】順天堂大学



11月10日(月)【視察】国会議事堂



11月11日(火)【意見交換・交流】
日中大学生交流会



11月12日(水)【訪問・講義】大分県庁



11月12日(水)【参観】宇佐神宮



11月13日(木)【交流】民泊体験

3. 参加者の感想（抜粋）

◆中国大学生

今回の視察と交流を通じて、日本社会の競争力の源泉は、単に先端技術にあるのではなく、技術・マネジメント・人文精神・社会的合意を高いレベルで融合させる「システムとしての力」にあることを強く実感しました。限られた資源や空間の中で、細部への徹底したこだわり、人間中心の動線設計、そして高い協調性に基づく社会的連携によって、高品質で信頼性の高い製品とサービスを生み出しているのだと深く理解することができました。

◆中国大学生

順天堂大学は、日本で有名な医学系の大学です。訪問時には、日本における市民スポーツの重要性について紹介していただきました。運動を強化することで体力を向上させ、抵抗力を高めるという考え方は、中国の大学ではあまり取り入れられていない部分であり、中国の関係者にとっても学ぶべき点だと感じました。

◆中国大学生

日本の大学生との交流を通じて、中日両国の若者の間で、生活観・価値観・結婚観・就業観などにおける違いを強く認識しました。こうした意見の交流は、私の国際的な視野を大きく広げると同時に、言語によるコミュニケーションの深みを感じさせ、語学学習の重要性を改めて実感させるものとなりました。

◆中国大学生

大分県では、健康増進政策に関する講義を聴講し、地方自治体の積極的な取り組みに対する理解を新たにしました。宇佐神宮や別府地獄温泉を訪れ、「地獄蒸し料理」などの特色ある食文化を体験することで、日本の自然や食文化の独自性を深く実感しました。最後の日の民宿での体験では、温かくもてなしていただき、日本の人々の日常生活や細やかなもてなしの心に触れ、心から温かさを感じました。

◆中国大学生

最終日には民泊体験をしました。受入家庭の方々は、地元の自然や美しい風景を案内してくださり、まるでアニメの世界に入り込んだかのような感動を覚えました。また、日本の抹茶文化や伝統的な食事も体験させていただき、日本についての理解をさらに深めることができました。今回訪れた東京と大分は、全く異なる雰囲気を持つ場所でした。東京はより繁栄して賑やかであり、大分は静かで落ち着いた環境でした。両地域を訪れることで、日本の風土や人々の暮らしに対する理解を深める貴重な体験となりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆順天堂大学

当機構では海外からの大学生向けに講演をするといった経験がなかったため、参加者にとって有意義な時間になるか心配でしたが、熱心に講義を聴講される大学生の姿は印象的で活発な質疑応答にも感動いたしました。今後も、日中の友好を深めていっていただきたいと思います。

◆大分県庁

- ・通訳を交えながらの説明は初めてで、よい経験になった。
- ・日本の行政の役割（国・県・市町村）等を改めて確認するよい機会になった。
- ・一方的な説明に終始してしまった。理解が深まるよう、中国でのその分野における施策などの情報をもらっておくべきだった。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2025 年 11 月 15 日（微信）	2025 年 11 月 15 日（微信） とても楽しい旅！毎日が新しい体験です。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表



【成果の発表】

大都市でも地方都市でも、日本では生活環境や社会的マナーが非常に重視されていることを改めて深く実感しました。これは中国が日本から学ぶべき点であると感じました。

また、日本の大学生との交流を通じて、中日両国の若者の間で、生活観・価値観・結婚観・職業観などにおける違いを強く認識しました。こうした意見の交流は、私の国際的な視野を大きく広げると同時に、言語コミュニケーションの深みを感じさせ、語学学習の重要性を改めて実感させるものとなりました。

今回の訪日により、日本そのものや日本社会・文化への理解が一層深まり、日本に対する親近感も増しました。

【アクション・プラン】

語学学習を強化し、日本のポップカルチャーについてもより多く学ぶことで、今後の交流活動において日本の大学生とより円滑にコミュニケーションができるようにしたい。

研究の視野を漢日対照言語研究から、言語の背後にある社会文化や社会意識の研究へと広げ、日本に対する理解を一層深めていきたい。



【成果の発表】

日中大学生交流会では、「結婚観」をテーマに日本の学生と活発な議論を交わし、両国の考え方の違いと共通点を肌で感じることができました。こうした対話を通じて、相互理解の第一歩は「相手の立場に立って考えること」にあるということを深く認識しました。

大分県では、健康増進政策に関する講義を聴講し、地方自治体の積極的な取り組みに対する理解を新たにしました。宇佐神宮や別府地獄温泉を訪れ、「地獄蒸し料理」などの特色ある食文化を体験することで、日本の自然や食文化の独自性を深く実感しました。最後の日の民宿での体験では、温かくもてなしていただき、日本人々の日常生活や細やかなもてなしの心に触れ、心から温かさを感じました。

【アクション・プラン】

私は今後も日本の文化や文学などの専門知識をさらに深く学び、日本語での会話力を高めていくつもりです。現在の研究テーマは日本文学であり、今回の訪日で得た見聞を積極的に活用し、より良い形で研究に取り組んでいきたいと考えています。

実施団体名：公益財団法人日中友好会館